

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2775600584		
法人名	株式会社 紀泉商事		
事業所名	グループホーム虹 2号館		
所在地	泉南市新家6001-3		
自己評価作成日	平成24年7月9日	評価結果市町村受理日	平成24年9月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階		
訪問調査日	平成24年8月10日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

高台に施設があり、フロアの大きな窓からは、海や関西空港などが一望できます。現在施設内の畑の面積を広くし野菜をたくさん育てています。今の旬の新鮮な野菜を利用者の方と収穫し、美味しく頂いています。  
 泉南市が推進しているWAO体操等を行い、寝たきり予防に努めています。  
 誕生日のお祝いのかねて利用者の方の食べたい物や行きたい所等お聞きし、要望に沿った支援を行っています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当ホームの開設されている泉南市新家踊山地区については、新興住宅街であり巨大なマンションや住宅が次々と建設されている。JR阪和線「新家駅」に徒歩10分というアクセスの良さに魅力がある。当ホームについてもリビングルーム兼食堂の共有空間は広く清潔感を感じる。同系列の協力病院もごく近くにあり、医療と介護の連携がすばらしい。ホーム半分を取り囲むように大きな菜園があり、利用者や職員やボランティアの育てたトマト、キュウリ、かぼちゃ、じゃがいも等が食卓に上がり、利用者の楽しみの一つとなっている。ここ2~3年色々な事情(定年退職、病気退職等)で、管理者が交代しているが、新任管理者は今度こそ落ち着いて仕事全体を見直し、職員ともども地域への貢献の仕方等を検討するなど努力されている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念のもと一人一人の思いを受け止め、尊厳を第一に思いやりの心で、価値ある人生を地域で送って頂けるよう職員一丸となり日々努力しています。	当ホーム独自の理念として、「一人一人を大切に、尊厳と思いやりの心で自立支援を地域の中で」と定め、玄関に掲示し、職員や利用者家族および地域住民にも理解を求めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	公園に散歩に行き町内の方々に声をかけたり、町内会の清掃活動に参加し交流を深めています。個別外出にて地域の店の方と馴染みの関係を築けるよう支援しています。	当地域自治会に加入し、その行事(菊花展等)に参加している。比較的元気な利用者と共に、町会の地域清掃活動に参加している。地域住民から在宅認知症高齢者のケアの相談にもものっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の正しい理解をして頂けるよう、地域包括支援センター等とも連携し、スーパーでの相談会や認知症サポーター講座、電話相談の受付を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	殆どが事業所報告になっていますが、町会長・行政・地域包括支援センター・ご家族様よりの貴重なご意見を頂いた時は、それを職員会議にて話し合い改善に努めています。	開催日を偶数月の第2火曜日と決め、年6回の開催が実現できている。行政から市高齢障害介護課、地域包括支援センター、地域から新家踊山区長に参加して頂き、双方向の情報交換会となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2か月に1回の運営推進会議にてご意見を頂いたり、介護サービス等わからない事はすぐ電話をして教えて頂いています。	市高齢介護課とはよくコンタクトがとれており、色々な相談ごとにものってもらっている。福祉関係の市職員の実習の場として提供している。市グループホーム協議会にも市の担当職員に参加してもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	何が身体拘束に当たるのか細かい内容を職員に説明し、リスク等考えながら拘束しない支援を職員と考えています。	職員の研修の場で「身体拘束は虐待につながる」ということを徹底している。ユニット間の行き来は自由で玄関も施錠していない。スタッフルームは玄関の正面にあり、見守りケアには都合が良い。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	本年度4月に外部講師を招き、併設の事業所と合同で研修を行いました。今後も職員の精神的支援等検討しながら、職員と一緒に虐待について勉強していきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護等の研修は管理者のみ何度か参加しているが職員への学びの機会がないので今後の施設内研修にも加えていきたいです。また、利用者の方には制度について説明しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等は事前に面会し、利用者・家族に説明し了承を得ています。改定等は文章や口頭で、経緯や理由等説明し、料金の変化をわかりやすく表にし説明し同意を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会では、個々に家族・利用者に意見や要望等を聞く時間を設け支援につなげています。家族の方は、面会時や電話で要望や意見をお聞きし、利用者の方は日々の会話の中からも意見を言うて頂くようにしています。	利用者からは、寄り添って1対1になった時(個室、入浴時、夜眠れない時等)にサービスに関する意見や要望を聞いている。家族もよく来訪されるので、色々意向をうかがって、年2回家族会を開き、要望をお聞きしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の気付きを大事にしています。月1回の職員会議やヒヤリハット等で情報を共有し、職員と一緒に考えながらよりよい支援を目指しています。	働く意欲の向上やサービスの質を高める上で重要なので、職員会議や介護現場で職員の気付きを大切にしている。	職員会議は利用者のケアの仕方についての意見が大半を占めている。年1~2回、職員個々に目標設定を記入してもらおう等工夫して、管理者による職員の個別面談が望まれる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意欲向上につながるよう、代表者等へ職員の評価等報告行っています。職員の努力への労いや、褒める事等も声掛けするよう心がけています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	GH協議会や他の協会からの研修案内がすぐ閲覧できるように事務所内に設置しています。参加しやすいように休日の配慮や場所の確認等行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会加盟GH間での交換実習に職員に参加してもらい意見交換したり、月1回の意見交換会にて情報交換し、職員には職員会議で伝え、今後のサービスの質の向上に反映させています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限り面会は1度でなく複数回行い、不安等あればその都度説明し、本人の気持ちに沿って進めるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思い等確認しながら、わからない事等への説明行い同意を得ています。細かい不明点はその都度面会時や電話でも説明しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何に困っているのか、本人・家族とお話する中で探りながら確認し、考えられる他のサービスの説明提供に努めています。また常に一緒に考えていける姿勢を心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活を職員が決めてしまうのではなく、本人が常に主導権を持って頂く事を職員が意識し日々の生活を、傍で一緒に考え過ぎて頂いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	それぞれの家族の気持ちも配慮しながら、家族の方が何度も足を運んで頂けるよう職員と考えたり、少しでも本人と家族が良い関係になれる様時には間に入り一緒に考えたりもしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会や外出して頂けるような環境は作っていますので、近所の方が遊びに来て下さっています。	忘れかけていた記憶を思い出してもらうため、馴染みの友人・知人との面会は支援している。しかし、それをあまり望まない利用者もあり、家族の希望でこれから馴染みの人を作っていく努力をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各ユニットの間には事務所がありますが、いつでも出入り出来るよう戸は開放しているので利用者同士の交流がもて利用者同士の助け合いも見受けられます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院により退所された利用者にも、面会にてほん・家族への言葉かけや状態確認を行っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	更新時以外にも、個々に思いを傾聴し、本人の意向に添えるよう利用者の方と話合っています。コミュニケーションが難しい方でも、必ず説明し、本人の思いを察しながら家族の方と相談しています。	提携病院からの紹介者が多く、既に介護事業所を利用する利用者も多い。情報を引き継いでいるが、別途に面談しそれを深く掘り下げている。全く初めての方は、自宅を数度訪問し、不安感を取り除く事を念頭におき生活歴を把握し、これからの暮らし方の希望を聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	病院より退院の方は、入所後自宅の間取りを聞きながら図を作成したり、長年入所されている方も日頃のコミュニケーションの中で知りえた以前の暮らしはアセスメントに書き足しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員とも気づきがあれば情報共有し、今の状態を疑問が上がる度に、本人に説明し確認しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族に要望を聞き、職員にも本人の気持ちを聞いてもらい一緒に作っています。	フェースシートを参考にし、家族の要望やかかりつけ医の意見も取り上げ、ケアマネジャーを中心に担当職員も参加し、本人本位のケアプランを立てている。モニタリングは6ヶ月ごとに実施し、ケアプランの変更性の有無を検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	コミュニケーションの中で気になる言葉は記録記入だけでなく職員へ申し送り、情報を共有し支援しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスで行われる家庭科クラブへ職員付添で参加されたり、市内の他のグループホームがされている布ぞうり作りに出かけたりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方として歌体操、絵手紙を教えに来て頂いています。近所の花屋、八百屋、病院とも馴染みの関係が築けるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前から今の主治医が診ていた方が多いのですが、協力医療機関だけでなく希望の病院へも通院介助行っています。	入居前から中谷病院をかかりつけ医としての方が多く家族の同意と納得のもと、入居後も継続して通院、受診している。他の病院や眼科、皮膚科などの受診希望者には個別に送迎し受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回～3回主治医と共に看護師が来てくれその都度相談したり、電話で状態変化・薬について連絡しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は家族と共に本人の支援を行っています。洗濯物や嗜好物等届け、病院の方とも情報交換に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合や終末期のあり方は、協力医療機関との連携があるということは説明しています。	重度化や終末期については入居時の早い段階から、家族と話し合いをもち同意を得ている。異常を感じた時の救急対応についての3点を本人、家族に説明し、方針を共有して利用者の意向を尊重した支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	個々に救急対応の研修に行ったりしているが全員ではない。緊急時には協力医療機関への連絡体制はできています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に1度は消防署の立会にもと消火・避難訓練を行っています。月に1度ある町内清掃後、避難場所や消火栓等について説明があり参加しています。	消防訓練は年2回実施して、毎月、地域の防災担当者より避難場所や消火栓などについて説明を受けている。避難経路も利用者が通行しやすい様に改修済みであるが、地域との協力体制はまだ確立されていない。	当事業所は「緊急一時避難場所」として地域に提供している関係もあり、入居者の避難時における見守り支援などについて、地域の協力体制を求め、地震対策も検討されることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間や家族・利用者の方と話す時、話す場所等に配慮しています。	プライバシー保護の職員研修を実施して、パーソンセンタードケアの視点から利用者の人格を尊重した対応が出来る様に心掛けている。入浴、排泄時には、利用者の誇りを損ねない様に口調や言葉掛けには気を配っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の洋服一つでも選んでもらえるように支援しています。選ぶのが難しい方でも、時間をかけて、二つから選んでもらったりその方によって対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「靴下を買いに行きたい」との突然の訴えがあっても、本人と相談し買物支援行って喜んで頂いたりしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出かける時等、帽子や上着を選んで頂いたり、女性の方はお化粧を一緒に行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方に味付けをみて頂いたり、一緒に調理等行っている。個々の好みにより味付けを変更したり、代用の物を用意しています。	事業所裏の広い畑で豊富な夏野菜を収穫して利用者もできる範囲で準備、調理、盛り付けなどを職員と一緒にしている。一人ひとりの好みに応じて食材は同じものを使用するが献立に変化を持たせ柔軟に対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に食べやすい形態にて、食事提供しています。毎日の水分量集計・食事摂取量を記録し、月に1度体重測定を行い変化により主治医へ報告や職員間で検討したり、利用者の方に今食べたい物を聞いたりしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアは行っています。出来る方へは声かけ、出来ない所を支援しています。入れ歯は週に1回はポリドントにて洗浄しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼間はトイレでの排泄が出来るよう職員2名介助にて行っています。排泄パターンを把握し夜間リハビリでも昼間は布パンツ等、快適に過ごして頂けるよう検討しています。	個人記録表に排泄パターンを記録して、トイレ誘導を行っている。昼はトイレ介助を行い、夜間はオムツやリハビリパンツ、ポータブルトイレを使用して自立排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体調不良だけでなく、認知症のBPSDにも便秘は影響している時もある事を意識しています。排便確認を毎日行い便秘薬は協力医院の医師や薬剤師とも連携し提供しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入りたい回数や、使いたい洗剤等お聞きしたり、入浴内容等確認しながら提供しています。決まった時以外に入って頂く事もありますが、まだまだ一人一人の入りたい時に合わせて行えていません。	浴室は広く清潔で安心・安全を確保している。入浴は週2～3回実施して、本人の希望を聞きながら清拭、足浴、便失禁時等のシャワー浴を取り入れ個々に応じて臨機応変に支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の本人の要望と今の状態を確認しながら、ゆっくり過ごして頂く時間も確保しています。必要な福祉用具等も本人や家族と相談し提供しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	必ず服薬時名前と日付を本人の目の前で読み上げ手渡したい、袋を開けて掌にのせ飲みこみ確認しています。新しく処方時や中止後は特に様子観察注意し主治医と連携しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	茶葉を袋に入れたり、洗濯物をたたんだり毎日何か個々の能力を確認しながら一緒にやって頂き感謝の言葉掛けをしています。川柳や手芸、歌等その方の好きな事を職員と一緒にしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近くの公園に散歩に行ったり、月2回の買い物外出以外にもおやつを買いに行くのを手伝って頂いたりしています。	日常的には子ども連れの親子が遊びに来ている近くの公園に出かけ、散歩を楽しんでいる。季節行事や希望に沿って、バラ園や紫陽花で有名な長慶寺に行き、大阪場所中のお相撲さんと写真撮影をする等の普段行けない外出支援をしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	持っていないと不安な気持ちを尊重し、持っておられる方もいます。持っても使わんしという方は、家族が管理されています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者がいつでも家族や友人に電話できるようにしています。携帯を所持されている方もいます。手紙を毎日のように送って下さる家族の方には、一緒に返事を書く支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの壁に季節を感じる展示を毎月のように変えています。職員と利用者一緒に考え作成しているので、出来上がった時は利用者の方から笑顔がみられます。室内・各部屋の温度調整や光の入り具合は常に確認しています。	2ユニットの中央に両ユニットをつなぐ事務所兼通路があり、各ユニットの利用者の声も聞こえる。共用空間は明るく広々として窓外には畑や緑の木々が広がり眺望が良い。広い対面キッチンからは料理の様子がうかがえ、壁面は季節感の漂う手作り作品を貼る等の工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では一人になれる場所が作りにくいですが、ソファやテーブル等で気の合う方同士でテレビを見たり、会話しながら過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は馴染みの物を持って来て頂いています。カレンダーや時計など今がわかるよう見える所に置いています。	居室入口には木製の表札が飾られ、ドアには目印となる様に大きな字で名前を書いた紙が貼ってある。居室には家族と相談して馴染みの家具や写真、思い出の品物を飾り、安心して居心地よく暮らせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレをまだ1か所ですが吊り戸から引き戸にし体重をかけても一人で開けやすいように変更しました。トイレや浴室・洗面所はすぐわかるよう文字であらわしています。		